コ　ラ　ム

国際ガラス年2022の行事・企画について

国際ガラス年日本実行委員会事務局長　AGC㈱ 材料融合研究所

吉田 智

Events and activities in IYoG2022

Satoshi Yoshida

Materials Integration Laboratories, AGC Inc.

はじめに

国際ガラス年 2022 が国連で宣言されるという動きを受けて，2020 年 12 月 9 日国際ガラス年日本実行委員会（以下，実行委員会）が設立された。2021 年 2 月 21 日の理事会にて，公益社団法人日本セラミックス協会内の組織として承認され現在に至っている。この間，幾度も宣言が延期となり，実行委員会の設立からほぼ半年が経過した 2021 年 5 月 18 日，ついに国際ガラス年 2022 の決議案が国連総会で採択され，来年 2022 年が「国際ガラス年」となることが決まった。実行委員会の設立から国際ガラス年が宣言されるまでの半年間，筆者を含めて実行委員会に参画いただいている皆様は，「本当に国際ガラス年は宣言されるのだろうか？」という不安と疑いの中にあったことと思う。このように少し心許ない船出ではあったが，日本での国際ガラス年の取り組みはスタートし，プレイベントとして位置付けている企画も既に開催頂いている。ここでは，実行委員会で現在計画している行事やイベント，企画について紹介することで，多くの方と共に国際ガラス年を祝い，様々な取り組みを盛り上げたく思っている。なお，本稿を執筆している時点で，国連での宣言から 3 カ月余りしか経っていないため，ここでは紹介できなかった新しい企画も続々と計画中であること，紹介した内容や日程に変更が生じる場合があることをご理解いただければ幸いである。

国際ガラス年日本実行委員会と分科会

国際ガラス年の決議案の採択には，日本を含め世界各国から数多く寄せられた「国際ガラス年の賛同書」（世界で 1640 件，日本で 78 件）が大きな役割を果たした。この紙面を借りて，ご賛同いただいた多くの機関，そして賛同書の収集にご尽力いただいた関係各位に心より御礼申し上げる。国際ガラス年の目的の一つに「ガラスの科学と芸術と文化に関わる世界の様々なイベントに取り組むこと」がある。この目的を達成するためには，ガラスの芸術と文化に関わっておられる方々との連携は必須であり，賛同書を関係各所にお願いする際にもその点を配慮されたと伺っているが，実行委員会においても，造形と科学の連携が重要な課題の一つであり，国際ガラス年以降にも引き継ぐことができると考えて各種の企画を予定している。

〒 230-0045
神奈川県横浜市鶴見区末広町一丁目 1 番地
AGC 株式会社　材料融合研究所　無機材料部　ガラス・セラミックス材料チーム
TEL　050-9014-3168
E-mail：satoshi.s.yoshida@agc.com

実行委員会は，京都大学田部勢津久教授を委員長，東京大学井上博之教授を副委員長として46名のメンバーで構成されている。メンバーの詳細は，実行委員会のホームページ（https://iyog2022.jp/）を参照されたい。表1に示すように，実行委員会は20の分科会を有している。分科会の活動には，各分科会長より選出された30名の分科会員の方々にもご尽力いただいている。このように，現在のところ総勢76名で実行委員会の企画の立案，準備などを進めている。20の分科会のうち17の分科会は，「アウトリーチクラスタ」，「日本セラミックス協会イベントクラスタ」，「学協会イベントクラスタ」という3つのクラスタに分類し，クラスタ内の分科会の連携を密にして魅力ある企画が進められるような構成としている。

表1　国際ガラス年日本実行委員会の分科会とクラスタ構成

クラスタ名	分科会名
–	Closing ceremony 分科会
アウトリーチクラスタ	Opening 企画分科会
	全国ガラス体験実験分科会
	理科教室分科会
	理・芸・地域社会融合分科会
	異業種連携分科会
	ガラスマップ分科会
	広報分科会
-	造形関連分科会
日本セラミックス協会イベントクラスタ	第53回夏季若手セミナー分科会
	2022年年会および秋季シンポジウム分科会
学協会イベントクラスタ	学会連携イベント分科会
	放射性廃棄物固化関連事業分科会
	応用物理学会関連分科会
	環境材料関連事業分科会
	ゾルゲル法関連事業分科会
	生体材料関連事業分科会
	非晶質構造解析関連事業分科会
	電池材料関連事業分科会
–	企業対応関連

表2　国際ガラス年2022に予定されている国際イベント

イベント名	開催地	開催予定日
オープニング会議	スイス・ジュネーブ	2/10-11
国際ガラス産業技術展覧会	中国・上海	4/11-15
国際ガラス会議 （および DGG100 周年記念会議）	ドイツ・ベルリン	7/3-8
国際ガラスアート／ミュージアム	米国およびヨーロッパ	未定
クロージング会議	日本・東京大学安田講堂	12/8-9

国際ガラス年に予定されている行事と企画

実行委員会の企画を紹介する前に，国際ガラス年2022において計画されている国際イベントを紹介したい（表2）。表2に示すように，日本はクロージング会議のホスト国を務めることが決まっており，実行委員会ではClosing ceremony分科会を中心に，その内容を検討しているところである。現在のところ，この国際ガラス年の採択に大きく貢献した方々を招待して国際ガラス年の活動を総括し、未来への展望について議論する機会を提供としたいと考えている。

クロージング会議を含めて国際ガラス年2022に予定しているイベントを表3に示す。表3に示すイベント以外にも，今後様々な展覧会やシンポジウム，講演会を国際ガラス年の記念イベントとするための取り組みを続けている。

展覧会やシンポジウム以外にも国際ガラス年を記念した企画が計画されている。出版に関連するところでは，日本セラミックス協会のセラミックス誌，学術論文誌における記念特集号，色材協会の色材協会誌における特集号，日本表面真空学会の表面と真空誌における特集号などが予定されている。さらにガラスマップ分科会では，文部科学省の科学技術週間に制作・配布される「一家に1枚」ポスターへの採択を目指した申請を行っている。理・芸・地域社会融合分科会では，「街ガラス」と名付けた取り組みを

表3　国際ガラス年2022に予定されている国内イベント

イベント名	開催地	開催予定日	主催
日本ガラス工芸協会創立 50 年記念「'21 日本のガラス展」	・姫路 ・能登島	・1/6-3/6 ・3/12-8/29	日本ガラス工芸協会
第 35 回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム 会期内企画	未定	1/7-9	日本放射光学会
国際ガラス年 2022 オープニングセレモニー・講演会	オンライン	1/28 （予定）	国際ガラス年 日本実行委員会
「十人十色　ガラス展」Vol.11	横浜	3/10-15	イートーテン
日本セラミックス協会年会　会期内特別講演	東京	3/10-12	日本セラミックス協会
応用物理学会（2022 年春季講演会） 会期内シンポジウム（予定）	相模原	3/22-26	応用物理学会
日本化学会第 102 回年会イノベーション共創プログラム	西宮	3/25	日本化学会
粉体粉末冶金協会春季大会 会期内企画	新潟	5/24-26	粉体粉末冶金協会
日本ゾル - ゲル学会セミナー　会期内企画	未定	5/ 未定	日本ゾル - ゲル学会
固体イオニクスセミナー　会期内企画	未定	6/ 未定	固体イオニクス学会
日本ゾル - ゲル学会討論会　会期内企画	未定	8/ 未定	日本ゾル - ゲル学会
第 53 回日本セラミックス協会ガラス部会夏季若手セミナー	豊橋	8/ 未定	日本セラミックス協会 ガラス部会
日本セラミックス協会秋季シンポジウム 会期内記念セッション	徳島	9/14-16	日本セラミックス協会
応用物理学会（2022 年秋季講演会） 会期内シンポジウム（予定）	仙台	9/20-23	応用物理学会
青少年のための科学の祭典　会期内企画 「ガラス大発見！あなたの知らないガラス集合（仮題）」	東京	9/ 中旬	ガラス産業連合会 環境広報部会との共催
ナガハマグラスフェス	滋賀	11/ 未定	黒壁スクエア
日本バイオマテリアル学会大会 会期内シンポジウム（予定）	東京	11/28-30	日本バイオマテリアル学会
第 63 回ガラスおよびフォトニクス材料討論会	東京	12/6-7	日本セラミックス協会 ガラス部会
クロージング会議	東京	12/8-9	国際ガラス年 日本実行委員会

進めている。北海道・小樽市，富山県・富山市や滋賀県・長浜市など，ガラス工房やガラスの美術館などを通してガラスと地域を結び付けている自治体や関連団体と連携して，国際ガラス年を記念したイベントを開催頂くよう協力依頼を進めている。この他にも，各地で開催されるガラスづくり体験教室の情報やガラス工場の見学にかかる情報も取りまとめ，発信していきたいと思っている。

おわりに

国際ガラス年 2022 での実行委員会の取り組みの一部を紹介させていただいた。2022 年まで与えられた時間は限られているが，実行委員や分科会員だけではなく，関係する多くの皆様にご協力いただきながら，様々なアイディアが具現化されようとしている。最新の情報については，実行委員会のホームページ（https://iyog2022.jp/）でご確認いただければ幸いである。このホームページは実行委員会の広報分科会により立ち上げられ，コンテンツの充実が進められている。また，企画のご提案や協賛させていただけるイベント等のご連絡もいただければ幸いである。国際ガラス年 2022 がトリガーとなって，国内の様々なガラス関係者を繋げる新しいネットワークが構築されることを願っている。